

石狩さけまつり

思い出の名場面

49回の歴史を刻んできた石狩さけまつり。その初期における懐かしい記録です。

札幌市内のパレード

まつりの前日には、自衛隊音楽隊を先頭に札幌市内でパレードを行い、まつりをアピールしました。



石狩川に浮かべた舞台で

歌謡ショーや札幌の芸者さんの踊りなどさまざまな催しが行われました。

原点を守り脈々と続いてきたまつり

石狩さけまつりには、私自身、いろいろな思い出があります。



(一社) 石狩観光協会 会長
大川 修司 さん

20代のころ、石狩川で行われた、手こぎボートのレースに出場したことや、吹奏楽のパレードを見たり打ち上げ花火を見たこと。運営する側になってからは、当時会場だった石狩浜で石狩鍋を出したら、砂が入って大変だったこと。観光客が大勢押し寄せ、大渋滞になったことなど…。観光客といえば、彼らのお目当ては即売会の新鮮な石狩のサケと石狩鍋で、この2つは昔から本当に人気がありました。まさに石狩の2大ブランドです。

そんなまつりは、二度の中断を経験しながらも、回を重ねて今年50回目を迎えます。その間、まつりの中で変わらず行ってきたのがサケ供養と、その豊漁祈願でした。まさしく、まつりの原点はここにあります。

節目となる今年、私たちは先人たちが大切にしてきたこの思いを、次の世代へ引き継ぐべく、子どもたちにサケの稚魚の放流体験をもらったり、あき味の会の協力を得て、小中学校に出向き、サケのさばき方を見てもらうなど、さまざまに取り組んでいるところです。市民の皆さんにもまた、積極的にまつりにご参加いただき、この思いに共感いただければうれしい限りです。

第1回の流灯コンテストと花火大会

サケや灯台を模した巨大なあんどんとともに小・中学生がつくった数百の小さなあんどんが川に流されました。

